

## 住宅エコポイントについて考える

住宅エコポイントとは、ご存知の方も多いと思われますがエコ住宅を新築された方やエコリフォームをされた方に対して一定のポイントを発行し、これを使って様々な商品との交換や追加工事の費用に充当することができる制度です。家電と同様に地球温暖化対策の推進及び経済の活性化を目的としています。

家電においては、地上波デジタル放送への移行やオリンピック、ワールドカップの開催で薄型テレビの売れ行きが好調だったようです。

さて、住宅はどうだったのでしょうか?

### ●消費拡充(新築住宅)

住宅エコポイント最高点(30万点)をもらえる住宅(省エネ基準を満たす住宅)は従来の価格よりも建物全体で60万円から100万円程割高になることが新聞等で指摘されていました。また、新築住宅一戸の価格に対して30万ポイント(30万円相当)は価格の1%程にしかなりません、お得感がうすく住宅建築の決め手にはかけるようです。

しかし、新築マンションでは、各戸にそれぞれ30万ポイントが付加されることで、エコ住宅という響きが

購買層に刺激になつてゐるといった話を聞きます。

新築住宅よりお得感があつたりリフォームは窓の断熱改修が好調だったようです。

いちはやく家電量販店と大手サッシメーカーが連携して家電販売店にサ

ッシの売り場を設けたことは大きなニュースになりました。

ただ、リフォームも消費を拡充するにはいたらず、市場の落ち込みに歯止めをかける程度の効果にとどまりそうです。

深刻な建築不況を盛り返す程には効果が見えない住宅エコポイントは業界にとつては残念ですが、利用する側にとつては話は別で、この制度を賢く利用して頂きたいと思います。

● 地球温暖化対策

さてエコ住宅、エコリフォームのエコとはなんでしょうか?

今回のポイント対象では【断熱】がキーワードです。

高機能の断熱材や断熱窓で住宅を覆い、住宅の気密性を高めて外気温の影響を受けにくくし、冷暖房の使用をひかえることは、電力の消費が

あさえられ省エネ効果があります。

さらに、エコキュートや太陽光発電と組み合わせれば、より消費電力を減らすこと、別々に考えてはいけません。

を減らすことができるでしょう。

『省エネ』それは化石燃料に由来するエネルギーが二酸化炭素を排出するため、電気の使用量が減れば温

暖化効果ガスである二酸化炭素の削減につながる訳です。

これから建設されるすべての建物がこの住宅エコポイントの基準を満たした住宅になるなら、二酸化炭素の排出量が減るやも知れません。

この住宅エコポイントの成果はまだ発表されていませんが、建築戸数が伸び悩んでいる様では良い結果はないでしょ。

当組合では、森林の保護やエコの観点から国産材の活用を提案し続けてきました。

住宅建材の中で木材が占める割合は一番高いのですが、今回の政策ではまったくその部分に触れていません。そのことが不思議でなりません。

たとえ高機能の断熱材を使用しても海外から燃料をたくさん使って輸送してきた外国産材を使用するといは工コなのでしょうか?

森林を守ること、温室効果ガスを減らすこと、別々に考えてはいけません。

### お知らせ

見習営業の熊本氏が一身上の都合で退職いたしました。



木々は成長する時期にたくさんの二酸化炭素を吸います。成長の時期をすぎるといそこの量は減つていきます。伐採と植林を繰り返し、きちんと整備しなければ二酸化炭素の吸収量が減るのです。また荒れた山々は水を蓄える能力がなく、地すべりや土砂災害を起こします。

**地球に優しい**ことは全てにつながつていて、どれか一つだけが良い事ではありません。もっと対象にするべきものはたくさんあるのではない

かと残念な気持ちがします。

省エネだけに目をむけたエコポイントは根本的な環境へのケアを対象としていません。もっと対象にするべきものはたくさんあるのではない

かと残念な気持ちがします。